

概 要 報 告

実施期日	令和8年8月5日(水)
部 会 名	中学校 社会部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善
(含む個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実)

テーマ

『学習者中心の学びの実現に向けた授業 ～誰一人取り残さない授業を目指して～』

提案概要

テーマ設定について

「誰一人取り残さない授業」ということを一番の目標とし、一斉授業ではついてくることが難しい生徒の可能性や自己肯定感も大切にして、生徒一人ひとりが自分のスピードと方法で知識を探究できる環境を整えたいと考えた。また、十分な理解ができるかについては不安があったため、口頭確認の方法も取り入れて知識の定着を図った。教師の役割を「知識の伝達者」から「学習の伴走者」へと変え、自由進度学習か一斉講義かのいずれかではなく両方のバランスを取りながら、生徒が自己決定をし、自ら課題を見つけ解決していく授業づくりを目指した。

育成したい資質・能力

歴史を単なる暗記ではなくストーリーで理解し、資料を通して基礎的な知識を身につけられるようにしたい。また、それを受け身ではなく自ら進んで習得できるよう、学習方略や学ぶ順番も自身で選べるような選択の余地を与えられるよう留意した。自由進度学習やICTを活用した学習を通して、自己の課題解決に必要な情報を主体的に選択し、学習の個性化を図ることをねらいとしている。

実践の内容

- 単元についての「問いづくり」（1時間）
単元に関する自身の「問」を挙げ、グループで吟味し、重要な「問」を三つ挙げる。
- 基本事項の確認（1時間） 講義形式
生徒の挙げた質問事項から作成した動画で単元の全体像をつかみながら、講義形式で本単元を捉え、プリントで学習する。
- マイプラン学習（4時間） 自由進度学習
マイプラン学習で取り組む四つの問を提示し、うち二つの問とプリント2枚を4時間の中で自由にデザインして学ぶ。また、生徒が理解できたと思ったタイミングで、教師と1対1で口頭確認を行う。
- 単元のまとめ（2時間）
1時間目の前半は解答の確認で知識や考え方を共有し、以降は単元のまとめとして、①文書作成アプリケーション、②プレゼンテーションソフト、③動画、④紙芝居、⑤その他から、生徒が選択し振り返りを行う。

成果と課題

生徒一人ひとりが自分の学習速度や習得方法を選択できる環境を整えたことで、従来の「一斉教授・受動的な受講」という形態から、自ら課題に向かう「主体的な学び」への変容が見られた。自

分のペースで進められる安心感が学習への心理的ハードルを下げ、「やらされている」という感覚を軽減させ、学習順序を選択できる「余白」があったことで、生徒の学習に対する責任感と納得感が高まった。また、①単元全体のゴールを見据えて「今日はどこまで進めるか」を自ら設計する力（自己調整能力）が養われたこと、②教師との口頭確認や生徒同士の教え合いを通じ、自分の考えを言語化して伝える機会が増加し、より質の高い対話（コミュニケーション力）が育まれたこと、③多様な資料から必要な情報を抽出・整理する過程で、複雑な歴史的背景を簡潔にまとめる要約力（情報処理能力）が向上したことから、社会科の枠を超えた、「汎用的スキル」の獲得にもつながったと考える。特にこだわった「誰一人取り残さない授業」という点については、個々の習熟度に合わせた柔軟な支援が可能となったことで、授業前から質問にくる生徒や、チャイムが鳴った後も学習を進める生徒なども増え、生徒が主体的に学習に取り組めるようになったと感じる。

今後の課題としては、「一斉講義」と「自由進度学習」の最適なバランスの調整である。全てを個別に委ねると、歴史の大きな流れ（ストーリー）や重要な概念の理解にばらつきが生じる懸念があるため、流れをつかめるような講義はやはり必要である。学習環境についても、生徒が選べるように教室の中でスペースを分けて、生徒がより効果的に学習に向かっていけるようにしていきたい。

質疑応答

Q1 生徒との1対1の口頭確認の質問内容について、どのような工夫をしているか。

A1 3パターンほど用意し、学力等を考慮しながら生徒によって質問を変えている。

Q2 自由進度学習に切り替えた際の生徒の様子や課題についてどのように受けとめているか。

A2 全ての資料を公開すること、評価基準をあらかじめ出すことで、どのように学習すればよいかわかるようにすることを意識した。また、自由進度学習に切り替えてからの定期テストで、生徒自身にこの学習方法で力がついた実感をもたせられたことも重要であった。

協議の柱及び協議概要

多様性を包摂する社会科の授業づくり

グループ協議から

教師側の準備は大変だと思うが、多様な生徒がいるなかでぜひやってみたい取組であるという意見が多く出た。一方で、自分で動ける生徒はよいが、難しい生徒もいるのではないかと懸念や、評価の難しさ、テストはどういった部分から出題するのかなどの意見があった。

まとめ概要

本授業は、まずは授業者が自由進度学習というものを取り入れ、生徒のために大きな授業改善を行うことから始まった。これは、鎌倉市の教育大綱で掲げる「学習者中心の学び」を実現させるための3つの視点に適うものであり、尚且つ、次期指導要領の目指す方向性にも沿った非常に有意義な取り組みだったと考えられる。何より授業者が、自身の授業をより良いものにすべく常に自問自答しながら、これで完成ではなくさらに考え、さらに深めていくという姿勢で臨んでいることで、結果として、子どもたちが授業中だけでなく休み時間にも真剣に取り組むような『学びを自分事としてとらえる』を導いたと考える。今回の実践に対する生徒のアンケートからは、「授業で聞くんじゃなくて、自分で考えてやったら楽しかった」「自分で考えてまとめる力がついたと思う」「自分で計画して実行する力がついた」「やっていく中で積極的に自分の考えを持ち、『考えるのが楽しい教科』になった」などの回答が多く見られ、90%以上の生徒が前向きに取り組めたと肯定的な回答をしている。また、自己調整能力、情報処理能力、コミュニケーション力がついたと感じられる回答も多くあり、ほとんどの生徒が授業に意欲的に参加できたことがうかがえる。

今後の課題としては、自由進度学習と一斉授業のどちらかを選ぶのではなく、最適なバランスを調整し、あわせて我々教職員が、常に自分の授業づくりについて考え、研鑽しながら子どもに向き合っていくことではないかと考える。